歴史・環境・遊び・夢
手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報
2017年10月20日
第36号

手賀沼が海だったころ

活動報告　3月～10月

●4月23日（日）平成29年度総会＆歴史講演会『中世の板碑と城郭～柏市・白井市城周辺から～』開催！

市外からの参加者が増加

午前10時から中央公民館の集会室にて、平成29年度の総会が開催されました。

昨年度の歴楽講座への参加者数が延べ246名で、見学会も3回開催されたこと等が報告。

また、今年度からカシニワとしての活動も本格化することも発表。松ヶ崎城跡の柏市による借り上げ期間もあと2年となり、地域の方に認識してもらい、どんどん活用してもらいたいとの提言も報告されました。

役員に関しては、昨年度から引き続き、会長・会計に森伸之氏、会計監査に小柳満雄氏と北紘子氏が承認されました。幹事会としては、幹事の人数が昨年度に比べ減っているので、会員の皆様の積極的な活動参加を希望いたします。

←以前にも当会で講演していただいたことのある小林茂先生のお話に、皆さん熱心に聞き入っていました。

下総は板碑の交差点!?

午後14時から総会と同じ会場で開催された歴史講演会は、地域史研究家の小林茂氏を講師に『中世の板碑と城郭』をテーマに講演していただきました。

板碑について、板碑とはどのようなモノなのか、その特徴と作られた時代について等基本的な事はもちろん、柏・白井地域での特徴等、興味深いお話が展開。

多くは卒塔婆として作られたが、単なる死者への供養のためではなく、仏像が一般化する前の信仰の対象だったという事には、多くの方が驚きの表情に。

中世が全盛だった板碑には、下総型と武蔵型があり、柏・白井地区はその双方の形式が分布する板碑の交差点だったということにも、好奇心を刺激されたようです。

参加してくださった皆さんは、小林氏の興味深いお話に、熱心に耳を傾けていました。

↑→板碑の現物や板碑の分布を示す資料も展示され、休憩時間には興味津々で見入る方も大勢見受けられました。

●5月20日（土）カシニワフェスタ2017参加イベント 松ヶ崎城跡見学会開催！

城跡の見学会は、毎回多くの方が参加してくださっていますが、今回は、カシニワフェスタの関連イベントとして開催。植物に興味を持つ方々が多く参加くださったようです。残念ながら、キンランやウラシマソウ等の開花期を過ぎ、ヤマユリにはまだ早いという時期でしたが、それでもこの地の植生に興味を持って見学なさっていたようです。

もちろんいつものように、古代や中世の歴史に興味を持っている方もたくさん。森会長の解説を、皆さん熱心に聞きながらの見学会となりました。

また、このイベントのために、通路の草刈り等にご協力くださった会員の方がいましたことをここにご報告し、お礼を申し上げます。幹事だけでは、これだけ好評のイベントとはならなかったと思います。ありがとうございました。

↑城跡の中でも、かつてお不動様があった脇郭を見学する皆さん。ここが手賀沼観光の一つの名所になっていたというのは、皆さんにとっては意外だったようです。

●5月28日（日）平成29年度第１回歴楽講座 『千葉県北西部の軍用鉄道等の戦争遺跡』開催！

→公民館の和室で開催されたこの回は、いくつかの鉄道模型も展示されました。

新京成電鉄の路線の一部は、かつて軍用鉄道であり、東武野田線等も当初鉄道連隊が敷設したことをご存知でしょうか？

こんな驚くような事実について、森会長が解説する第１回歴楽講座が、中央公民館和室にて、約20名程の参加者を集めて開催されました。

開催に合わせ、室内には鉄道模型や写真等の資料も展示され、皆さん興味深くご覧になったようです。

千葉県に軍用鉄道が敷かれたのは、明治時代に津田沼と千葉に鉄道連隊が配置されたからだといいます。さらに松戸と津田沼を結ぶ演習線も作られました。

鉄道を利用した近代戦を行うために組織された鉄道連隊は、関東大震災の鉄道復旧に大きな力を発揮するとともに、戦争中は中国大陸進出のために出動したとか。千葉県内には、その連隊の兵士を訓練するための施設があったそうです。

第二次大戦後は、各施設が、大学等の敷地となったり、演習線の一部が私鉄の敷地として活用されました。ただ、現在の状況からかつての姿を想像するのは難しくなっているそうです。

合わせて、柏周辺の鉄道に関わる戦争遺跡についても解説してくださいました。

●6月25日（日）平成29年度第2回歴楽講座
『下総城郭の歴史と謎Ⅰ』開催！

全国で城郭は4～5万あるそうですが、その内千葉県内には約1千以上の城郭があるといわれています。中でも佐倉城や本佐倉城は、日本百名城にも選ばれるほどの名城として知られています。そこで、千葉県内でも特に下総地域の城郭について、興味深い歴史や謎について2回に分け、森会長が解説しました。

その1回目であるこの日は、中世城郭についての概要と、千葉氏の室町以前の城館、馬加系千葉氏の城郭、そして佐倉城についてを中心に解説。

←会長の解説にも登場した本佐倉城跡。馬加系千葉氏の本拠地といわれ、千葉県で唯一国の史跡にも指定されています。

下総地域は平地が多く、山城が無いという地域性があり、河川や湖沼などを利用した水辺の城などがあり、しかも軍事目的のものが中心という特徴があるとか。

千葉城の築城当初は、姿も場所も違っていたという変遷についての解説も、興味深かったのでは？

アミュゼ柏の会議室で行われた今回、いつもリ狭い会場にあふれんばかりの参加者が集まってくださり、皆さんは真剣に聞き入っていました。

●7月30日（日）平成29年度第3回歴楽講座
『下総城郭の歴史と謎Ⅱ』開催

下総地域の城郭について解説する講座の2回目となるこの日は、場所を中央公民館の集会室に戻し、享徳の大乱と関連する下総地域の城についてをはじめ、太田氏や武蔵千葉氏、上杉謙信らの攻撃に耐えた白井城、二つの生実城、小金城等の俗説と真相についても、森会長が解説しました。

いずれも中世史に関心のある方にとっては、大変興味深い話だったのではないでしょうか？

さらに、柏地域にとっては大変重要な手賀原氏の城についても解説。新しい発見があったのでは。

またこの日、できたばかりの会誌『水辺の城ー手賀沼沿岸・歴史と自然ー』がお目見え。多くの方が興味を持ってくださいました。

↑白井城跡に立つ太田図書の墓。

←ほとんど資料も残っていない手賀城跡は、皆さんにとっても歴史ロマン誘う場所でもあるのでは？

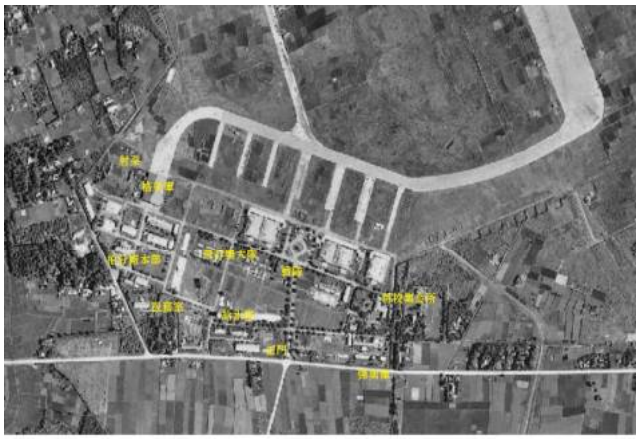
●8月20日（日）平成29年度第４回歴楽講座
『柏飛行場と陸軍航空の終焉』開催

ここ数年恒例となった感のある8月前後に開催している「不戦の誓い新たに」の思いを込めた講座が、パレット柏の多目的スペースで開催されました。

満州事変のあった昭和6年（1931年）から太平洋戦争が終結した昭和20年（1945年）までの時代背景とともに、陸軍航空の歴史について、軍事史学会の会員でもある森会長が解説。改めて柏地区での陸軍航空隊についてが語られました。

これまでも、元隊員への聞き取り調査の報告や、ロケット戦闘機として知られる「秋水」についての講座が開催されてきましたが、今回の講座では、航空隊全体の変遷にも言及。

参加した誰もが、平和への思いを強くしたのではないでしょうか？



←終戦後に米軍が撮影した航空写真に写っていた柏飛行場（国土地理院　空中写真より）

●9月30日（土）2017年度特別歴史講演会
『車ノ前五輪塔と柏の中世世界ー水上交通の視点からー』開催

千葉県文化財保護指導委員でもある間宮正光氏を講師に迎え、柏の中世世界についての特別歴史講演会が、パレット柏にて開催されました。

今回の講演内容、信仰と水上交通の視点から中世の様子を見直してみようという興味深いもの。というのも、考古学調査の進展によって、様々な歴史的事実が少しずつ明らかになってきたからだそうです。

かつて手賀沼を含む広大な水域であった「香取海」は水運の重要な拠点だったとか。そのため、信仰とともに、多くの技術者たちも移り住んだといいます。その一つが石工たち。そのため、大井地区周辺には、板碑や五輪塔など、石でできた中世の信仰の対象が多く残されています。

講演会の後も興味が尽きなかったのか、間宮先生は大勢の方たちに囲まれていました。

←間宮先生の説明は分かりやすく、先生のファンも大勢いたようで、質疑応答の時間も多くの方が手を挙げられていました。

幹事会からのお知らせ

●会誌「水辺の城ー手賀沼沿岸・歴史と自然ー」が創刊！

歴楽講座に参加されている方の中には、すでにお手にしてくださった方もいるかと思いますが、会誌「水辺の城ー手賀沼沿岸・歴史と自然ー」が創刊しました。

創刊号となる今回は、創立15周年記念講演会の講演録を中心に、会員が以前会報に執筆した地域史についての原稿やお便り等を収録。柏市長の秋山浩保氏と柏市教育委員会教育長の河嶌貞氏からのお祝いの言葉もいただいています。原稿を掲載させていただいた方には１部ずつ配布させていただいているほか、図書館などには寄贈させていただいています。また、１部700円で頒布しています。

今後年１回程度のペースで発行していきたいと考えておりますので、ぜひ会員の皆様には原稿の投稿などで、ぜひご協力をお願いいたします。

●今年度後半の予定について

早くも本年度も半分が過ぎ去ってしましましたが、後半も歴楽講座はもちろん、お城祭りなども予定しています。これからの予定については、下記をご確認ください。

また、当日参加はもちろん、準備のお手伝いをしてくださる方も常時募集しております。こんな会がある、こんな活動をしているということを、これからもいろんな方に知っていただき、一緒に盛り上げていただけたらと思っております。

10月22日（日）13時～
アミュゼ柏会議室B
第６回歴楽講座『江戸開府前後の謎と東葛』
講師：森　伸之会長

11月19日（日）10時～
松ヶ崎城跡
お城祭り
内容：城跡見学会、演芸、焼き芋等の販売、他
参加協力団体：柏の葉お囃子会、福島支援団体、他

12月17日（日）13時～
詳細未定
第７回歴楽講座　柏飛行場跡見学会

1月28日（日）13時～
会場未定
第８回歴楽講座　内容未定

2月25日（日）13時～
会場未定
第９回歴楽講座　内容未定

↑昨年のお城祭り演芸より、おおたかの森お囃子会の皆さん。

会員だより

●筑波山麓の新名所「小田城跡歴史広場」

山野辺　恭夫

←小田城跡の全景。なかなかの広大な城跡公園であることがわかります。

平成２９年5月2日、つくば市にある小田城跡歴史広場を見学しました。広場には、平成28年に復元整備されたばかりの本丸跡地と歴史館があります。本丸跡地規模は、南北５５０m、東西４５０mの平城。空堀はあるが、大きな建造物はありません。

ここは柏市から比較的近く、常磐自動車道の土浦北インターから国道125号に入り20分、小田十字路信号を左折した所。小田城跡は鎌倉から戦国時代に、常陸国に勢力を持った小田氏の居城跡です。居城跡地は昭和１０年に国の史跡指定を受け、指定面積は21万7千平方メートルと広大です。

つくば市では、平成21年(2009)から7年間をかけ、本丸跡とその周辺4万平方メートルを、中世小田城跡を体感できる歴史広場として復元整備しました。付属の歴史館では、小田氏15代、400年間の物語を立体的に展示・解説しています。

特記事項は次の通りです。

1．初代八田戸知家（ともいえ，4代後に小田氏に改名）は常陸南部に勢力を持ち、源頼朝から常陸守護職に任じられた（1190年頃）。

2、7代の小田治久(はるひさ)は、後醍醐天皇の南朝に参加、暦応元年（1338）に南朝方の重臣である北畠親房を小田城に迎えたことにより、当地は関東の南朝方の一大拠点になった。親房の「神皇正統記」は、この時、小田城で執筆された。

3．戦国時代小田氏は、上杉・佐竹・北条らと合戦と和睦を繰り返し、戦は負け放しで、100戦100敗であったが、すぐに城を取り戻すことを繰り返した。城は平城で防備に弱く、敗戦時は城の一角の櫻川より同族の土浦城に逃げた。

4．天正18年（1590）、15代の氏治は、佐竹氏に征服されて、結城氏の食客になる。

5．慶長6年（1601）結城秀康の国替えで、氏治は越前に移る。佐竹氏も秋田に移封。

廃城され、幕府領となり、陣屋が置かれた。

←公園の案内図。

小田城歴史広場：つくば市小田２５３２－２　電話 029-867-4070　無料　月曜日休館
ギャラリーカフェ梟（ふくろう）：つくば市小田３０６６　元庄屋の倉を改造したカフェ、食事はできない
平沢官衙遺跡歴史広場：つくば市平沢３５３　奈良・平安時代の常陸国筑波郡庁跡地で校倉作り建物が2棟

以上の記述は歴史館配布の資料を参考にしたものです。

●芝増上寺と徳川家

森　伸之

「芝で生まれて神田で育ち、今じゃ火消しのアノ纏持ち」

端唄にあるように、芝といえば、江戸っ子の本場のような場所であった。粋な江戸っ子の象徴のような火消しは、芝では「め組」だが、増上寺の境内には、増上寺門前を守った町火消し「め組」の碑がある。

←芝増上寺にある「め組」の碑

その芝にある増上寺は、古い浄土宗の寺で、三縁山広度院増上寺（さんえんざんこうどいんぞうじょうじ）というのが正式名称である。増上寺が開かれたのは、明徳4年（1393年）と室町時代にさかのぼる。浄土宗第八祖聖聡（しょうそう）上人を開基とするというが、天正18年（1590年）、小田原北条氏にかわって関東の地を治めることになった徳川家康は、その存応上人に帰依し、徳川家の菩提寺として増上寺を選んだ。よく知られるように、徳川氏、元の松平氏は代々浄土宗に帰依しており、徳川家康は「厭離穢土欣求浄土」、すなわち「穢れた国土を厭い離れ、阿弥陀如来の極楽世界を願う」という教えを馬印とした。

「三縁山歴代系譜に云く、当寺草創之地者、貝塚今糀町辺、中頃移于日比谷辺、後慶長初移于芝云々、日比谷より芝に移りしは慶長三年戊戌八月なり」と『江戸名所図会』にあるように、慶長3年（1598年）には、現在の芝の地に移転した増上寺は、徳川将軍家の外護のもと、大きく発展していく。三解脱門、経蔵、大殿が建立され、三大蔵経が寄進されるなどした。家康は元和2年（1616年）増上寺にて葬儀を行い、久能山に埋葬するようにとの遺言を残し、75歳で歿した。

このように、増上寺は上野寛永寺と並ぶ徳川将軍家の菩提寺であり、徳川家の庇護のもとに大きくなった寺であるが、江戸城からみると西南にあたり、京都に対する比叡山のように江戸城の鬼門を守る上野寛永寺（あるいは浅草の浅草寺）、同じく西南の裏鬼門を守る山王日吉神社などとともに、その場所には呪術的な意味もあったという。

増上寺の「大門」は、都営地下鉄浅草線、大江戸線

↑オフィス街にある大門

の駅名にもなっている。「大門」といっても、それほど大きくはなく、現在の門は再建されたもの。他に「御成門」も現存するが、こちらも都営三田線の駅名となっている。

「御成門」は増上寺の北方馬場にあった裏門であり、なぜ「御成門」というかといえば、徳川将軍家が増上寺に参詣する折に、この裏門がもっぱら用いられたため、「御成門」と呼ばれた。

↑増上寺の三門（三解脱門）

大門といえば、ＪＲ浜松町駅とも近く、その周辺はオフィス街である。その大門を抜け西へ進むと、浄土宗の寺院が並ぶ大通りの突き当たりに、ひときわ大きな増上寺の三門（三解脱門）がある。これは、江戸初期の建造で、東京都内最古の建築物になるらしい。三戸楼門、入母屋造、朱漆塗造りの三門で、元和８年（1622年）、江戸幕府大工頭・中井正清とその配下による建立で、国の重要文化財に指定されている。

周辺は昼ともなれば、ランチに昼休みの散歩にと、周辺のオフィスから出歩く人も多いが、東京プリンスホテルがあるせいか、外国人の姿も目立つ。

その三門をくぐると、増上寺の境内である。増上寺の境内には、新しい本堂や鐘楼があり、本堂の裏の墓地の一角に徳川家廟所があって、徳川秀忠らの将軍が葬られている。

この増上寺の境内には、新しい本堂や鐘楼堂があり、本堂の裏の墓地の一角に徳川家廟所があって、徳川秀忠らの将軍が葬られている。

鐘は江戸時代の川柳に、「今鳴るは芝か上野か浅草か」、「江戸七分ほどは聞こえる芝の鐘」などとうたわれた。芝は増上寺、上野は寛永寺、浅草は浅草寺、何れも徳川家が江戸の守りとして信仰した寺を示している。鐘楼堂自体は戦後の再建であるが、鐘は、延宝元年（1673年）にあまりの大きさに七回の鋳造を経て完成した、江戸三大名鐘の一つに数えられた鐘だという。

増上寺といえば、前述のように徳川家の菩提寺である。ここには、二代秀忠、六代家宣、七代家継、九代家重、十二代家慶、十四代家茂の将軍たちが眠っている。その廟所の門は「鋳抜門」といい、六代家宣の墓所にあった門であるという。上野寛永寺には四代家綱、五代綱吉、八代吉宗、十代家治、十一代家斉、十三代家定の墓所がある。初代家康は久能山から日光東照宮に改葬され、三代家光も日光輪王寺に墓がある。

十五代慶喜は、寛永寺の谷中霊園における飛び地にあるから、それも寛永寺に含めれば、初代から十五代の徳川将軍家は、日光に二人、寛永寺に七人、増上寺に六人が葬られていることになる。しかも、徳川家は浄土宗であったのだが、家康の東照宮の神道は良いとしても、三代家光の霊廟のある輪王寺は天台宗で、四

代家綱らの眠る寛永寺は、東叡山（東の叡山の意）と号する徳川家が建てた天台宗の寺と、なぜか数の上では天台宗のほうが優勢である。

実は増上寺の徳川家廟所の前に、葵の紋を染め抜いた幕のかかった建物（安国殿）があるのだが、これは徳川家康の信仰していた黒本尊をまつっている。増上寺のオフィシャルHPによると、「恵心僧都（えしんそうず）の作とも伝えられるこの阿弥陀如来像を家康公は深く尊崇し、陣中にも奉持して戦の勝利を祈願した。その殁後増上寺に奉納されましたが、勝運、災難よけの霊験あらたかな仏として、江戸以来広く庶民の尊崇を集めてきています。

黒本尊の名は、永い年月の間の灯明の煤（すす）で黒ずんでいることによります。やはり家康公の命名といわれています」とあり、「黒本尊」とは煤で黒くなった阿弥陀如来の像で、徳川家康は出陣の際はこの黒本尊に戦勝を祈願し、共に戦場に赴いたということになる。

徳川家康は、桶狭間合戦では今川方として大高城に兵糧入れを敢行、今川方敗戦のなかで岡崎城に戻って、やがて独立し、元亀３年（1572年）の三方ヶ原合戦で武田信玄軍に敗北したのを除き、生涯50回以上の合戦の殆どで勝利した。黒本尊のおかげか、とにかく家康は戦国時代を生き抜き、小田原合戦後は日比谷入江を埋め立て、利根川の川筋を変えて湿地の広がる江戸を大改造しつつ関東を支配し、やがて江戸に幕府を開いた。

参考文献：

『江戸名所図会』斎藤月岑（巻一に増上寺の記述あり、『新訂　江戸名所図会』（ちくま学芸文庫）など、新刊書も）

他に、増上寺のHPを参考にさせて頂いた

↑増上寺の徳川家廟所

↑増上寺の安国殿

情報広場

このコーナーでは、会員の皆様から寄せられた情報や、編集部が見つけてきた情報等、様々な情報をご紹介いたします。

●『鰯は弱いが役に立つ―肥料の王様　干鰯―』展開催中！

野田市にある関宿城博物館で、鰯にまつわる歴史を紹介した企画展が開催中です。日本では、鰯は昔から庶民の魚だと思われがちですが、実は鰯が庶民にまで知れ渡ったのは江戸時代中期以降なのだとか。しかも、鰯の加工品の主な産地の一つが、房総半島だったそうです。意外と知らない鰯の歴史は、なかなか興味深いものがあります。

この企画展は、12月3日まで開催中です。

●加曽利貝塚が国の特別史跡に認定！

千葉県内でもっとも有名な貝塚である千葉市の加曽利貝塚が、10月13日に正式に国の特別史跡に指定されました。それを記念して、千葉市では標柱を設置、11月3日にその除幕式を行うことになりました。さらに、指定を記念して11月18日には記念シンポジウムが開催されるそうです。詳細は千葉市の公式サイトで発表されるそうです。

●『本土寺と戦国の社会』展開催中！

松戸市にある本土寺は戦国時代の東葛地域には大変重要な場所であることは、地域史に興味のある方ならよくご存じだと思いますが、ここ本土寺が所有する寺宝を中心に、戦国時代の社会がわかる展示会が、松戸市の松戸市立博物館で開催中です。普段なかなか目にできない寺宝を通して戦国時代の社会がわかるような構成だとか。

また、10月29日（日）と11月12日（日）の午後2時からは、学芸員による展示解説会も予定されています。解説を聞きながら展示会を見てみては？

この展示会は、11月12日（日）までです。

編集部より

編集人の個人的諸事情で会報の発行が大変遅れましたことを、まずはお詫びいたします。

さて、いつの間にかすっかり秋らしくなり、時には冬並みの寒さを感じる季節となりました。皆さんは体調を崩したりしていないでしょうか？　ぜひ、体調管理だけはお気を付けください。

情報広場に載せきれませんでしたが、今年は様々な歴史的出来事の節目の年でしたので、日本各地で様々なイベントが企画されていたようです。会員の皆様の中には、そうしたイベント等に参加された方もいるのではないでしょうか？

ということで、会員の皆様からの投稿を、編集部では首を長くしてお待ちしております。ぜひよろしくお願いいたします。

また、今後の会報の定期発行のために、ご協力いただける会員の方を募集しております。こちらも、ぜひよろしくお願いいたします。

手賀沼が海だったころ
手賀沼と松ヶ崎城の歴史を考える会会報　第36号　2017．10．20
発行人：森伸之　編集人：藤田理恵子
年会費；2千円　振込先：千葉銀行　柏支店　口座番号：3461475